

## IP時代における電気通信番号の在り方について

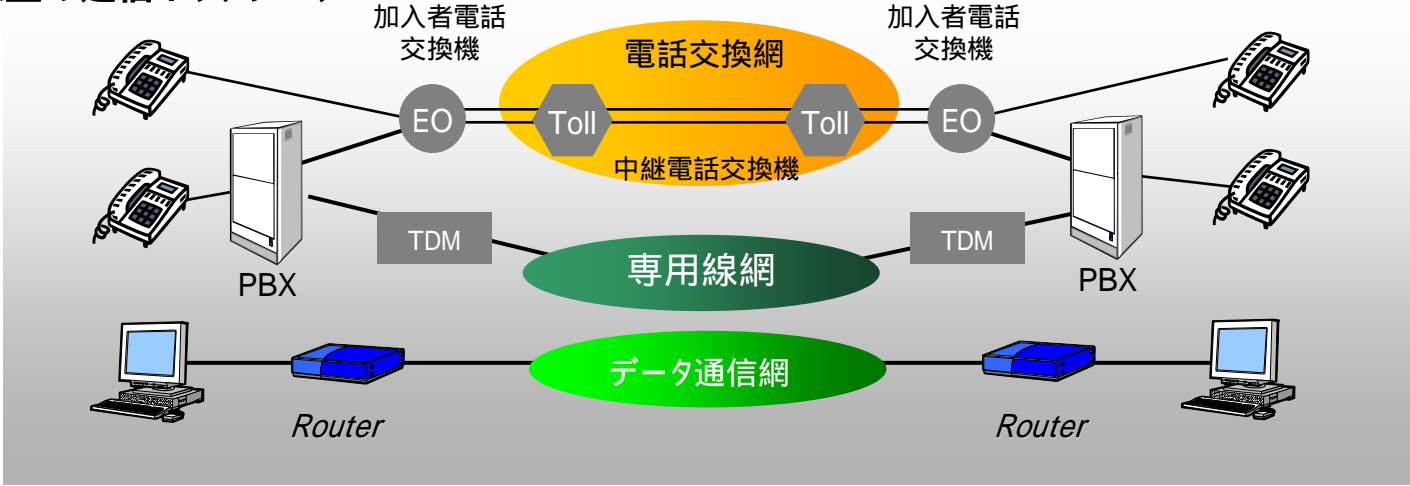
---

平成17年2月22日

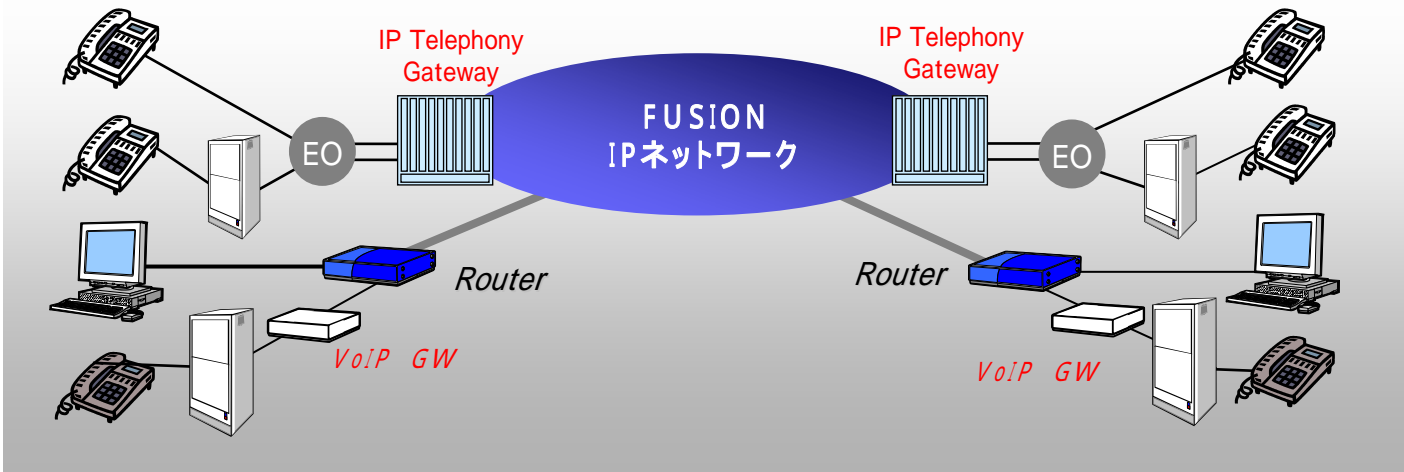
フュージョン・コミュニケーションズ株式会社

# 通信サービスのIPネットワーク統合

## 従来型の通信ネットワーク

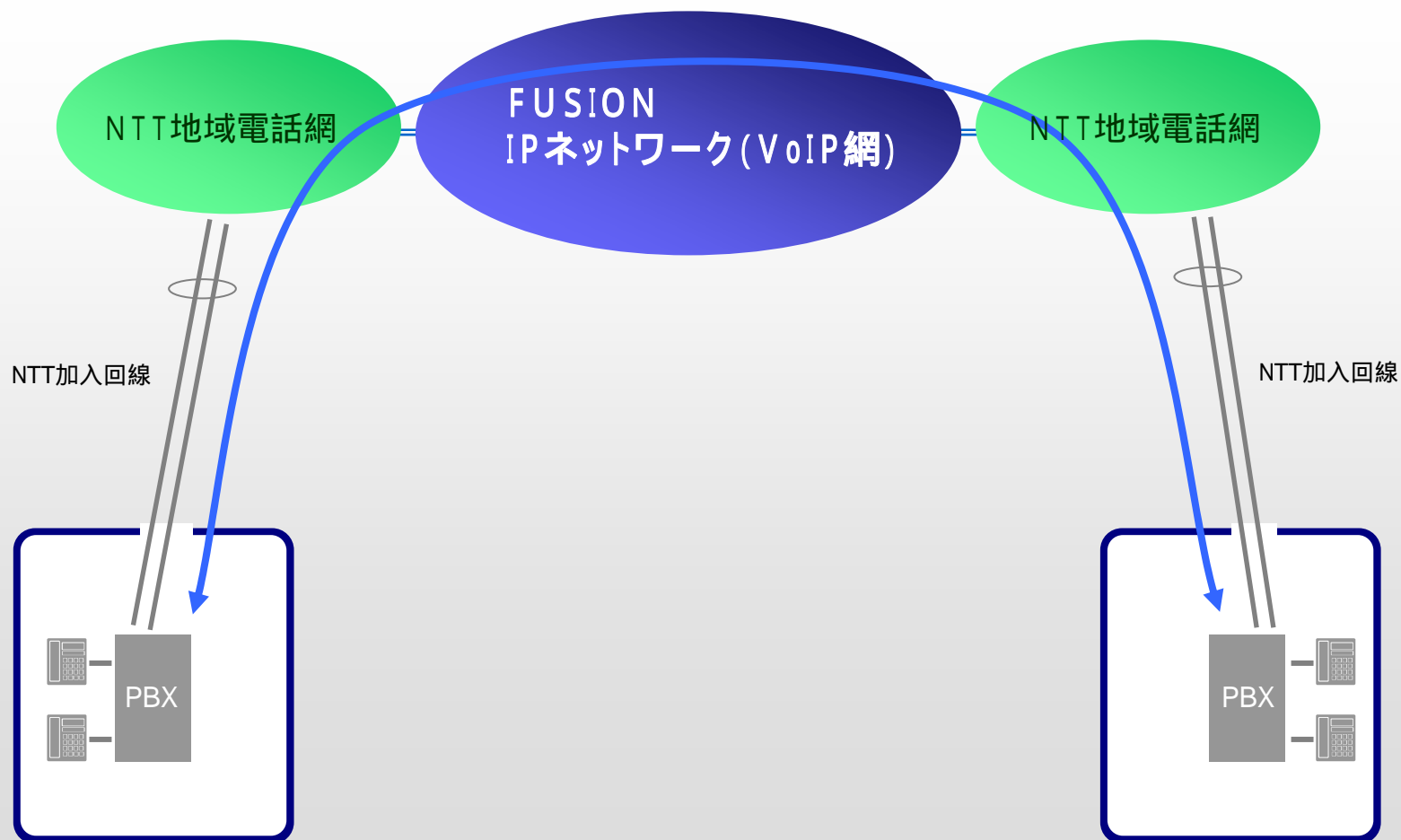


## Fusionの通信ネットワーク



# FUSION IP中継電話サービス

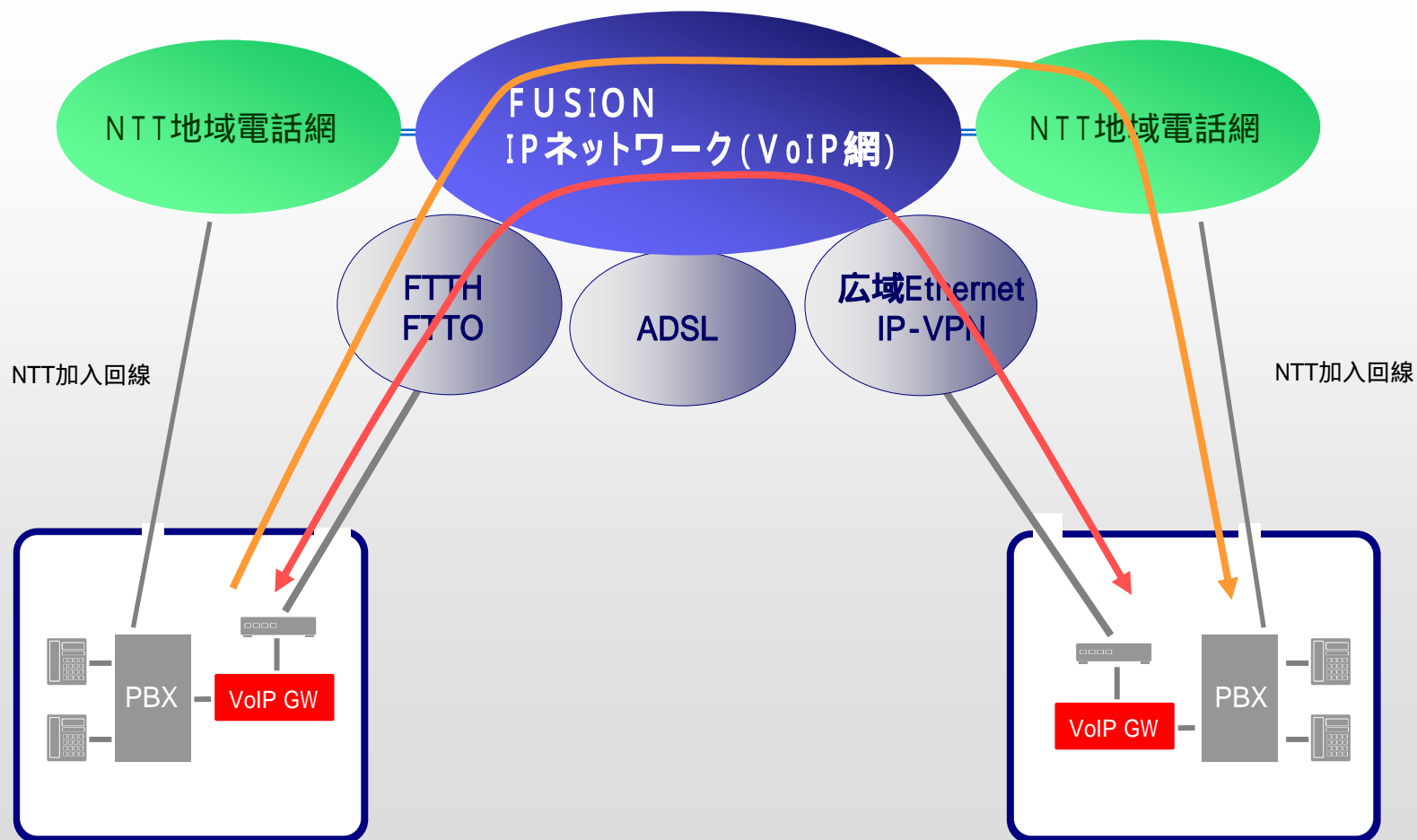
日本で初めてIP技術による中継電話(マイライン対応)サービスを展開。従来の電話同様の品質でご利用いただける!P電話で、既に250万を超えるユーザーがご利用。



# FUSION IP加入電話サービス



FUSION IP加入電話サービスは、既実績にあるIP中継電話サービスのネットワークをそのまま利用し、アクセス回線部分をFTTH / FTTO, ADSLや広域Ethernet、IP-VPNを用いて提供。



## FUSION IP加入電話サービス

- 0AB~J番号を用いるもの
  - － 下記アクセス回線を用いてサービス提供
    - 広域LAN(パワードコム, ケーブルアンドワイヤレスIDC, ビック東海)
    - FTTH/FTTO(東京電力, ユーズ・コミュニケーションズ)
  - － 地理的な固定利用が義務付けられている
  - － 既存固定電話並の音声品質が義務付けられている
  - － **既存固定電話のリプレース需要**
    - ほとんどが番号ポータビリティを希望
  
- 050番号を用いるもの
  - － 上記に加え、下記アクセス回線を用いてサービス提供
    - NTT フレッツADSLおよびBフレッツ
    - E-Access ADSL
  - － ロケーションフリー
    - ただし現状は固定的利用がほとんど
  - － 0AB ~ J番号を用いるものに比べ、音声品質の基準は低い
    - ただし一般的にADSL上でも固定電話並の音声品質が出る場合が多い。
  - － **現状は既存固定電話の補完的需要**
    - ほとんどが発信および企業の事業所間通信をメインに利用
      - － PSTNからの着信用には既存固定電話回線を並存

## 電話網のIP化を踏まえた電話番号の在り方(1 / 2)

- 現状IP電話およびドライカップを用いた直収電話は、既存固定電話の代替もしくは補完的利用がほとんどで、基本的には同一市場である。
- 通話料金のフラット化により、固定電話の単位料金区域の識別は必要なくなってくると思われる。
- 一方、地理的な親近感(営業窓口の電話番号等)やテレマーケティングの観点などから、料金面以外での0AB～J番号に対するある程度の地域特性は必要。

市場自体が拡大している訳ではないので、上記を鑑みた上での制度・方式の見直しにより0AB～J番号の逼迫は回避可能

- 番号区画の広域化の推進
- 番号ポータビリティ実現方式の変更
  - 番号ポータビリティ毎に裏番号用0AB～J番号を消費しないようにする

また現在0AB～Jの番号ポータビリティは、番号ポータビリティ前と同一住所での利用が前提とされているが、地域内での転居などユーザの利便性を考慮すると、電話網のIP化に伴ない同一番号区画内であれば番号ポータビリティを可能とする方向への見直しが適当と考える。

## 電話網のIP化を踏まえた電話番号の在り方(2 / 2)

- 今後IP電話のパーソナル化およびモバイル化の進展が予想される
  - FMC(固定・携帯の融合)
  - ロケーションフリーでの同一番号利用

0AB～J番号での対応ではなく、当該ニーズに対してはロケーションフリーが認められている050番号への移行を推進すべき。

しかしFMC用の番号として050番号を強要するものではない。

- 屋外での利用が主な場合は、携帯電話番号(090,080,070)を用いた方が利便性が高い。
- またUPT番号である060での利用も否定されるべきではない。

- 音声メディア以外での電話番号の利用
  - 現在は音声利用に対して番号付与

音声を伴わない通信に対する電話番号の付与をどうするか。

- 例えば難聴者向けの映像専用のテレビ電話など
  - 音声・映像併用だと、音声のみの通話でも接続されてしまうが、映像専用だと音声のみの通話を拒絶できる。
- R値等の基準が無い